

国立病院機構熊本医療センター

No.213



# くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 平成26年度 第2回(通算38回) 開放型病院連絡会が開催されました

熊本市医師会会長の福島先生のご挨拶



平成26年度第2回(通算38回)国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会を、去る2月21日(土)午後6時30分より、熊本医療センター2階地域医療研修センターにて開催いたしました。

開会にあたり、河野院長より現状報告と日頃の病病・病診連携へのご支援に対し感謝を申し上げます。

続いて、開放型病院運営協議会委員長で、熊本市医師会会長の福島敬祐先生からご挨拶を頂き、全体会議に移りました。

全体会議では、小野恵子糖尿病・内分泌内科医長より「当院における妊娠糖尿病診療の状況について」、山本直産婦人科医師より「当院における婦人科腹腔鏡手術の状況について」の症例提示が行われました。この後、清川哲志地域医療連携室長から「地域医療連携室からのお知らせ」、高橋毅副院長から「紹介予約セ

ンターからのお知らせ」を行い、最後に熊本市歯科医師会会長の宮本格尚先生からご挨拶を頂き、全体会議を終了いたしました。

続いて、熊本市医師会理事の家村昭日朗先生に座長の労をおとり頂き、厚生労働省医政局総務課保健医療技術調整官の町田宗仁先生による特別講演「医療法改正と今後の医療・介護提供体制」が行われました。

開放型病院登録医の先生方をはじめ、ご参加いただいた皆さまにおかれましては、お忙しいところ誠に有り難うございました。多数のご参加を頂き、大変有意義な連絡会となりました。この会が当院との連携を一層深めていただき、地域医療を益々発展させる機会となれば幸いです。今後とも、ご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。(管理課長 清水就人)



熊本市歯科医師会会長宮本先生のご挨拶



町田先生の特別講演



座長をして頂いた家村先生

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

### 患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「ペースメーカー」

荒尾中央病院

院長 光藤 坦



昭和40年頃から昭和50年頃の国立熊本病院と呼ばれていた時代の1ページです。当時は、熊大にも循環器科の講座がありませんでした。ただ第二薬理では、盛んに冠循環の研究が行われていました。循環器志望の私は、岳中教授の大学院生となり、主に動物実験（摘出心臓）を行いました。大学院卒業後は、高血圧、糖尿病の体質医学研究所へ入局しました。或る日、糖尿病の患者さんで意識消失発作を起こす人が入院してきました。アダムスストークス発作でした。大学病院の麻酔科の医師から国立熊本病院の心臓外科医である中村先生を紹介されました。中村先生は、確か、昭和45年に熊本でペースメーカーの

植込手術をした最初の医師でした。患者さんは、国立病院へ移り国立病院で植込みが行われました。私も中村先生の肩越しに見学しました。右の橈側皮静脈を探してリードを右室の心尖部へ向け、咳払い、深呼吸をさせても、リードの先端が外れない事を確かめておられました。当時のペースメーカーは約200グラムあり寿命も約2年でした。電池がリチウムに変わってからは40グラムの重さになり寿命も5年位にのびました。

体質医学研究所に居た右山医師は、すでに国立熊本の循環器科で働いていました。活動的な右山医師は、エコーのない時代でしたから心音図の大家、東大の坂本二哉先生の下で勉強をして来ました。右山医師と右心カテ、左心カテ、ヒス束心電図、ペースメーカー植込み等を行っていました。当時は穿刺法でなく、血管を切開してカテーテルを挿入していました。外科的テクニックも必要だったのです。何かあれば中村先生と並川先生が助けて下さると安心して色々出来ました。

昭和51年4月荒尾市民病院へ転勤しました。そして、アダムスストークスをしばしば起こす入院患者さんにペースメーカーを植込むことになりました。右山医師も国立病院からかけつけてくれました。私と右山医師以外は、皆、初めてです。緊張感が盛り上がった時、患者は突然発作を起こしました。しかし、大騒動の末に無事終わりました。1年間に植込むのは20台位だったと思います。

私の循環器は中村、並川両先生の御指導と右山先生の行動力のお蔭で国立病院から荒尾へとつながったと思います。今、病院の廊下には、モニターの音が鳴り響いています。

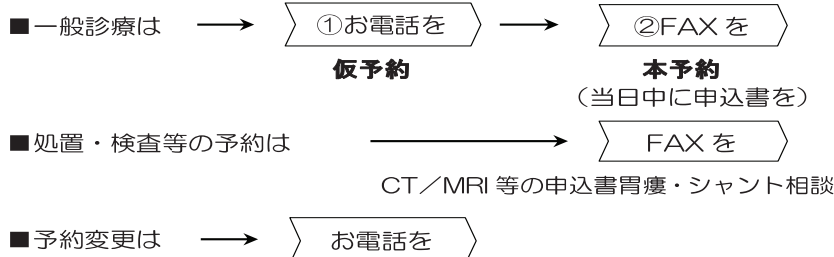
# 紹介予約センターの業務を拡大しました

平素は紹介予約センターのご利用にご理解をいただきお礼申し上げます。この度、以下の点について業務を拡大致しましたのでご案内申し上げます。緊急を要しない場合は、紹介予約センターのご利用をどうぞよろしくお願い致します。

- 受付時間を17:00まで延長 (新8:30~17:00、FAXは17:15まで可)
- 処置や検査の予約窓口 (CT/MRI、胃瘻・シャントの相談→FAX申込)
- 予約の変更・キャンセル (調整に時間を頂くことがあります)

## 紹介予約センター

TEL: 096-353-6565 (or-6566) FAX: 096-353-6563



## 地域医療連携室

- 入院のご相談
- 緊急受診のご相談

まずは当該診療科医師へご一報を

TEL: 096-353-6501 (病代)  
FAX: 096-323-7601 (専用)

# 病棟紹介

## 6 西病棟



6 西病棟スタッフ

6階西病棟は、人間ドック用2床を含めた50床の病棟です。診療科は産婦人科、小児科、糖尿病・内分泌内科、救命救急科に加え、平成26年より呼吸器内科と総合診療科が新たに加わりました。

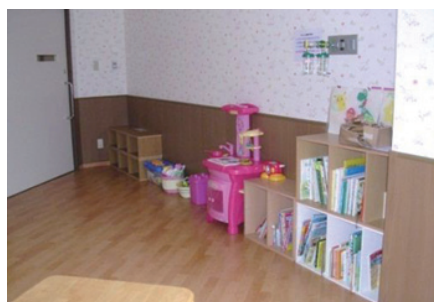
産婦人科は悪性疾患の患者様が多く、手術療法、化学療法、放射線療法の対応と同時に精神面のケアや症状緩和のケアにも丁寧に取り組んでいます。小児科では血液疾患や感染性疾患を主として、バイオクリーンルーム1床を有し小児白血病患者の骨髄移植を行っています。また、週2回食物負荷試験（アレルギー検査）を行っており、平成26年度は約150例の実績をあげました。糖尿病・内分泌内科では、妊娠糖尿病を含む糖尿病患者を多く受け入れ、他職種と共に週1回の糖尿病教室を運営すると共に、クリティカルパスによる患者指導に力を入れています。さらに、救命救急科や呼吸器内科では、人工呼吸器を含めた重症患者の呼吸管理、全身管理を行っています。

このように最も診療科が多い病棟のため、求められるスキルは多岐にわたり複雑ではありますが、季節の行事を取り入れながら、患者様に質の高い医療・看護を提供できるように、他職種と連携を図りスキルアップのための努力を重ねています。

（6西病棟師長 田中幸子）



人間ドック室（個室）



プレイルーム



糖尿病教室



豆まき



クリスマス会

**2015**  
**診療科紹介 (80)**  
**整形外科**



**部長・リハビリテーション科医長**  
**橋本 伸朗** (はしもと のぶろう)  
 脊椎外科

日本整形外科学会専門医  
 日本整形外科学会脊椎脊髄病医  
 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医  
 日本リウマチ学会専門医  
 日本リハビリテーション学会臨床認定医



**医長**  
**福元 哲也** (ふくもと てつや)  
 関節外科 (膝関節・股関節)  
 外傷外科

日本整形外科学会専門医



**医長**  
**前田 智** (まえだ さとし)  
 関節外科 (肩関節・股関節)  
 外傷外科

日本整形外科学会専門医



**医長**  
**中馬 東彦** (ちゅうま はるひこ)  
 整形外科一般  
 関節外科 (膝関節；股関節)  
 外傷外科

日本整形外科学会専門医

**診療の内容と特色**

近年、医療機関の機能分化が進み、医療連携なくして医療は行えなくなってきました。急性期医療を担う当院整形外科では、手術的治療が中心となっています。従って、術後リハビリテーションを要する多くの症例は、リハビリテーション施設へ転院治療をお願いしています。医療の標準化・質の向上を目指して53種類のクリティカルパスを作成し、現在、入院症例のほぼ全例に使用しています。地域連携クリティカルパスを連携施設と作成・活用し連携医療の質向上に努めています。



**医長**  
**平井 奉博** (ひらい ともひろ)  
 整形外科一般



**医長**  
**松下 任彦** (まつした ひでひこ)  
 整形外科一般、外傷外科  
 日本整形外科学会専門医



**医師**  
**杉本 一樹** (すぎもと かずひろ)  
 整形外科一般

**診療実績**

平成25年度の整形外科手術件数1,078件の内訳をみると、疾患別では、骨折に対する骨接合術が半数以上を占めていますが、脊椎手術が154例、人工股関節置換術が64例、人工膝関節置換術が90例、大腿骨人工骨頭置換術が116例でほぼ、前年と同数でした。平成25年度の整形外科新外来患者数は2,082名、入院患者数は1,166名で、平均在院日数は14.2日でした。

**研究実績**

QOL向上のための人工関節置換術、脊椎手術を中心とした低侵襲手術の臨床研究を続けています。これらの研究は、単に術式・材料に留まらず、総合的な医療の質向上のためのクリティカルパスと結びついた研究としても発展しつつあります。現在、国立病院機構の政策医療ネットワーク骨・運動器共同研究として、大腿骨近位部骨折の予防、臨床研究に参加しています。また、厚生労働科学研究では、主な医療行為に対するクリティカルパスの臨床評価指標及び経営管理指標を用いた評価方法の開発と医療機関経営に与える影響に関する研究に参加しています。

共同研究では、胸腰椎、椎体骨折に対する後方矯正術に参加しています。

## 医療相談支援センターに「入院支援室」を開設しました

平成27年2月より、4階の医療相談支援センターに「入院支援室」を開設しました。副看護師長と看護師の2名を配置し、婦人科外来の予約入院の患者さんから入院支援を開始しています。

入院支援室は、入院が決定した時点で手術や検査の説明、入院時オリエンテーションなどを行うことで、患者さんが安心して入院していただけるよう、多職種が関わり質の高い医療サービスを提供することを目的としています。現在は、医師の指示のもと、看護師が患者用パスや術前呼吸訓練の説明、必要な情報収集を行い、関係職種との連絡調整を行っています。薬剤師は抗凝固薬等の服薬状況確認、栄養士は栄養指導、MSWは医療相談など、それぞれの専門性を発揮し、患者さんを中心としたトータルサポートを目指しています。

また、当院はがん治療における口腔内合併症予



入院支援室での説明の様子



入院支援室

防に力を入れており、2月からは歯科口腔外科外来に看護師2名を配置し、地域歯科診療支援病院としての役割を担っています。中でも、周術期の口腔機能管理は重要であり、プラークコントロールや歯科治療の重要性を入院支援室で説明し、がん患者連携歯科医院を紹介するなど、地域の歯科医院との連携を強化していきます。

入院支援室を訪れた患者さんから、早速「説明をきいて安心しました」との声が聞かれ、担当者もやりがいを持って頑張っています。まだ、スタッフが少ないために一部の診療科だけの対応になっていますが、今後はスタッフを増やし、入院されるすべての患者さんに対応できる体制を整えて行く予定です。

(副看護部長 田崎ゆみ)

平成27年2月より  
入院支援室が開設しました

●入院支援室とは  
外来受診された患者様で、入院の予約がある方に事前に準備や説明を行い、安心して入院できるようなさまざまな職種が支援する部署です。

私たちは、入院にかかわる患者様のトータルサポートを行います

私たちは  
お手伝いします

入院支援室の対象は  
婦人科外来の患者様です。  
今後、診療科を増やす予定です。

まず、入院が決まりましたら「入院支援室」において下さい。説明をさせていただきます。

- ▶ 初めての入院で、向き不向きはありますか？
- ▶ 入院費用が高額になったらどうしよう？
- ▶ もっと聞きたいことがあったら、どうしたらいいの？

医療相談支援センター入院支援室  
(銀行ATMの前) PH5: 5525

## 厚生労働省の二川医政局長が来院されました

1月26日(月)厚生労働省の二川医政局長が来院されました。当日、午前中に国立病院機構九州医療センター(福岡市)を視察され、午後から当院視察というハードなスケジュールでした。医政局からは国立ハンセン病療養所管理室の筒井補佐、国立病院機構本部から國分企画経営部長、九州グループから田中総括長が同行されました。

当院幹部職員との挨拶・面談後、河野院長が当院の歴史、役割、診療機能、地域連携等について詳細な説明を行いました。二川医政局長におかれましては、数年前に来熊され、その際に当院(新築前)を視察されたとの事であり、昔話も交えながら終始和やかに、また興味深くお聞きになられました。そんな中で、熊本県内の主な病院の「MDC(主要診断群)別入院患者数の推移」や、当院の外国人患者に対する「医療通訳」について、関心を寄せておられました。病院概況説明



院内を視察される様子



ヘリポートでの記念撮影

後、院内をご案内しました。救命救急病棟をはじめ、手術室においては術中モニター視聴、県内唯一の骨髄移植等、診療機能の一部をご覧になりました。あいにくの雨等によりドクターヘリの離発着もなく、病床もほぼ満床状態であったためか、救急車搬送数も普段より幾分少なく、平時における当院の救命救急医療への対応状況については、現場でのリアル感が伝わりにくかったのでは、と少々残念な感もありました。こうして、約1時間半の視察を終えられた後、菊池恵楓園へ向かわれました。熊本県内の医療情勢をはじめ、当院の現況等についてご理解を頂けたと思います。

(事務部長 内田正秋)

# 院内感染対策研修会開催報告

九州グループの平成26年度院内感染対策研修会が1月21日から23日にかけて開催されました。感染管理の領域で我が国トップの先生方により、医療関連感染症、多剤耐性感染症、抗菌薬の適正使用、滅菌と消毒など密度の濃い講義が行われました。参加者は全国にまたがり、北は青森、南は沖縄から総勢48名でした。今回初めての企画として2日目に懇親会を開き、熊本城の夜景を見ながら熊本の美味しい酒と料理で遅くまで話



院内感染対策研修会会場の様子



総合討論会の様子

しが弾みました。

最終日の総合討論会では参加者の質問に講師コメンテーターが答えるという形式で行い、臨床現場からの素朴な疑問に対して丁寧な説明をいただきました。参加者の感想で著名な講師陣のレベルの高さに驚いたという声が聞かれました。今回の研修が各施設の感染対策に生かされることを期待したいと思います。

本院からも多くの先生方に講師、座長を引き受けていただき大変お世話になりました。この場を借りて深謝いたします。  
(感染制御室長 高木一孝)

# 熊本市第3回市民医療講演会が開催されました

去る1月27日に熊本市医師会館にて、くまもと医療都市ネットワーク懇話会と熊本市の主催で、第3回市民医療講演会が開催されました。この講演会では、毎年テーマを決めて“熊本における最先端の生命科学研究と優れた医療技術”を市民にわかりやすく紹介しています。今年のテーマは「心疾患・脳血管障害の治療」でした。

講演会では、大西一史熊本市長の挨拶の後、熊本大学医学部附属病院、国立病院機構熊本医療センター、熊本赤十字病院、熊本中央病院、済生会熊本病院のそ



高橋副院長の講演の様子

れぞれの病院より、最新の医療技術についての講演がありました。当院からは、「病院前救急医療ネットワーク構築に向けた多対多対応型モバイルテレメディンシステムの開発」と題して、私が講演致しました。熊本市は、全国的にも水準の高い医療機関や充実した救急医療体制があるなど、医療環境に大変恵まれた都市といわれています。今後、さらなる医療サービスネットワークが構築されることを望みます。

(副院長 高橋 毅)

**熊本市第3回市民医療講演会**  
最先端の生命科学研究と優れた医療技術  
心疾患・脳血管疾患の治療  
平成27年1月24日(土) 熊本市医師会館  
13:00-13:30  
13:40-16:00

①講演 「病院前救急医療ネットワーク構築に向けた多対多対応型モバイルテレメディンシステムの開発」  
②講演 「心疾患・脳血管疾患の治療」  
③講演 「熊本市医師会館」

①講演名 「病院前救急医療ネットワーク構築に向けた多対多対応型モバイルテレメディンシステムの開発」  
高橋 毅 (たかはし たけし) 院長 国立病院機構熊本医療センター 副院長

②講演名 「心疾患・脳血管疾患の治療」  
高橋 毅 (たかはし たけし) 院長 国立病院機構熊本医療センター 副院長

③講演名 「熊本市医師会館」  
高橋 毅 (たかはし たけし) 院長 国立病院機構熊本医療センター 副院長

## 第45回集団災害医学会セミナーが開催されました

平成27年1月25日、当院にて、第45回集団災害医学会セミナー（JADMS）が開催されました。九州で初めての開催になりますが、集団災害に関する研修コースはいくつかある中、比較的安価で、トリアージに関するSTART法、PAT法から災害机上シミュレーションまでを1日で学べるこのコースの価値は高く、今後の定期開催が期待されます。

このコースは、被災した地域の医療スタッフが、い



参加者との記念撮影

かに残った資源を有効活用し、DMATなどの外部資源と意味ある連携を取れるかを学べますので、必ず訪れる南海トラフ大地震への備えになると思われます。熊本県内外から16名の参加者を得、ランチョンセミナーには久留米大学 救命救急センターから 山下典雄 教授をお迎えしての今回、二次救急病院を中心とした医師・看護師・ロジスティクスの方々が充実した1日を過ごされました。皆さまにおかれましても何卒ご活用頂けますようお願い申し上げます。

(精神科医長 橋本 聡)



のラン  
チ  
ョ  
ン  
セ  
ミ  
ナ  
ー



セ  
ミ  
ナ  
ー  
受  
講  
中  
の  
皆  
さ  
ん

## 第6回熊本PEECコースが開催されました

平成26年2月1日、第6回熊本PEEC（Psychiatric Evaluation in Emergency Care）コースが開催されました。インフルエンザが大流行する中、29名（欠席1名）の方が修了されました。PEECコースは、日本臨床救急医学会が監修して作られた研修コースで、救急医療部門における精神科疾患の初期評価と初期対応を学ぶものです。平成25年7月からコース展開され、平成25年度は全国で16回開催、そのうち熊本では4回開催することが出来ました。

受講者は、医師（救急医・一般医・研修医）や看護



PEEC講習受講者

スタッフ、救命士、薬剤師、心理士、保健師など多岐にわたり、修了者は160名を超えましたが、修了後もレベルアップ・スキルアップのためにタスク参加される方が多いというのも熊本コースの特徴です。中には他府県のコースを手伝うまでになった方もおられ、熊本の意識の高さの表れと感じています。研修前日には福岡大学精神科教室より衛藤先生をお招きしての講演会も好評でした。来年度は、5月と11月の2回開催、九州内で10回弱の開催を考えていますので、是非、皆様のご参加をお待ちしております。

(精神科医長 橋本 聡)



PEEC講習会場の様子



ご講演頂いた衛藤暢明先生



## 病院立入検査が行われました

平成27年2月4日（水）13時30分より、熊本医療センター地域医療研修センターホールを検査会場にして、熊本市保健所による病院立入検査が行われました。検査員として大塚保健所長の他、医療政策課4名の計5名が来院されました。開始にあたり、保健所長のご挨拶、検査員の自己紹介に続き、病院側より、院長挨拶、幹部職員紹介を行った後、「病院マネジメント」、「院内感染・医薬品安全管理」、「医療安全・医療機器安全管理」の3グループに分かれ検査を受けました。15時過ぎから3班（1階～3階、4階～5階、6階～7階）に別れての院内巡視の後、16時10分より講評を受け16



研修センターホールでの立入検査の様子

時30分に検査終了となりました。

講評では、特に指摘事項等ありませんでしたが、規程、マニュアルを整備するだけでなく、その内容が本当に職員一人一人に理解され、万一のときに誰もが適切な行動がとれるということが必要である。KYT（危険予知トレーニング）手法を取り入れるなどした研修等を検討して欲しいというご意見を頂きました。

（管理課長 清水就人）



グループに分かれての立入検査の様子

## 春海保健大学の学生が施設見学に来院しました

平成27年2月10日（火）、春海（チュンヘ）保健大学（韓国）の応急救助学科の学生が施設見学に訪れました。見学者は、学生13名、教員1名、通訳1名の合計15名。学生は3年生で、卒業後は救命救急士を目指しているとのことでした。当院の救命救急センターを中心に見学したいとの要望でしたが、生憎、学会出席と重なり救命救急科の医師が対応できなかったため、院長、武本国際医療協力室長、田代臨床工学技士長等が対応しました。

一行は、15時頃当院に到着されました。当院玄関で、職員十数名が武本国際医療協力室長の作成した歓迎ポスターを手に見学者をお迎えしました。その後、研修室へ移動し、院長挨拶の後、武本室長がスライドを使用して概況説明を行いました。武本室長は、英語表記のスライドを準備しておりましたが、同行の通訳の方が英語を得意とされていなかったため、結局日本語で



ヘリポートでの記念撮影

説明するというエピソードがつかまりました。見学者から多くの質問が出されましたが、院長がひとつひとつ丁寧に回答しました。その後、院内施設を案内し、ヘリポートで記念撮影を行いました。見学者は、手術室、薬局、臨床工学室では医療機器等の写真をしきりに撮影していたのが印象に残りました。当初、1時間の予定でしたが、概況説明時に多くの質問があったこともあり、予定を30分オーバーして見学は終了しました。短い時間でしたが、見学者におかれては、有意義な時間を過ごして頂けたのではないかと思います。

（庶務班長 富田啓治郎）



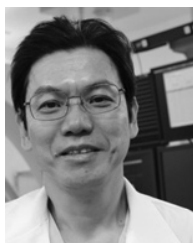
当院玄関でお迎えの様子

武本室長の概況説明



## 最近のトピックス

## 「左主幹部急性冠症候群」



循環器内科部長

藤本 和輝

冠動脈は、左主幹部から前下行枝、回旋枝に分岐する左冠動脈と、右冠動脈から構成されています(図1)。

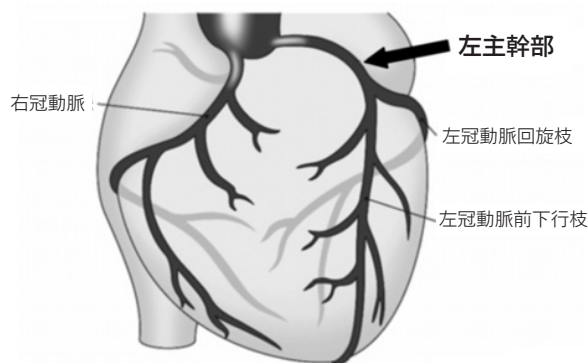


図1

熊本大学循環器内科関連病院で、2009年1月から熊本県で発症した急性冠症候群全例登録開始しました。急性冠症候群は、重篤な疾患ですが、その中でも左主幹部急性冠症候群は、前下行枝と回旋枝の2本の枝を含みますので、特に死亡率が高く、突然死の原因となります。今回、特に致死性である左主幹部急性冠症候群に関して検討しました。

## 【対象】

2009年1月1日～2012年12月31日までに発症した急性冠症候群：3666例のなかで左主幹部急性冠症候群：

97例(71.2±12.2歳、男性：68例、70.7±11.8歳、女性：29例、72.3±13.2歳)。

## 【結果】

1. 死亡率は、非左主幹部急性冠症候群に比べて左主幹部急性冠症候群は非常に高かった(4.4% vs. 37.1%)。男性と女性で死亡率を比べると、非左主幹部急性冠症候群では、4.9% vs. 9.9%、左主幹部急性冠症候群でも、30.9% vs. 51.7%で、男性よりも女性の死亡率が高かった。
2. 左主幹部急性冠症候群で生存例と死亡例で、年齢差を認めませんでした(71.3±12.3y vs. 71.0±12.1y)。
3. 生存例と死亡例で、発症から来院までの時間(4.7±4.7h vs. 2.8±3.8h)、来院から治療までの時間(1.5±2.0h vs. 1.1±1.5h)に有意差を認めませんでした。
4. 来院時、血行動態が悪いほど、死亡率が高かった。
5. 初回冠動脈造影時、冠動脈の血流が良好なほど、死亡率が低かった。
6. 側副血行路が良好なほうが、死亡率が低かった。

## 【結語】

1. 左主幹部急性冠症候群は、非左主幹部急性冠症候群に比べて、死亡率が非常に高いが、血行動態、血流が保たれている症例は、比較的予後良好でした。
2. 左主幹部急性冠症候群で血行動態、血流が保たれている症例でも、非左主幹部急性冠症候群より、予後不良でした。

最後に症例を提示します。

80歳代、男性で胸痛を自覚し救急車で来院されました。来院後、ショックとなったため、まず、IABPを挿入し、冠動脈造影を行いました。左主幹部：100%でしたので、引き続き治療を行いました(図2-1：治療前、図2-2：治療中、図2-3：治療後)。低心機能でしたが、心不全のコントロールでき、自宅退院となりました。



図2-1：治療前



図2-2：治療中



図2-3：治療後

## 研修医レポート

### 歯科研修医

おりた つよし  
折田 剛



はじめまして。熊本医療センター歯科口腔外科研修医の折田剛です。生まれは鹿児島、育ちは熊本です。北九州市小倉の九州歯科大学を卒業し、平成26年4月から地元熊本で研修させて頂いています。研修期間も残りわずかとなりました。研修開始当初、病院のシステムや診療のことなど、わからないことが山のようにありましたが、少しずつですがわかることも増え、落ち着いて研修に取り組むことができるようになってきています。私は、歯科のことだけでなく、全身のこと

を学びたいという理由から熊本医療センターを研修先として希望しました。様々な診療科の先生の講演を聴く機会が多く、救急外来や皮膚科、耳鼻科、形成外科などを見学させて頂きました。他科と合同で手術を行う機会もあり、とても充実した研修となっています。医科の研修医が身近にいることもいい刺激となっています。歯科口腔外科では、義歯や齲蝕などの一般歯科治療、炎症や交通外傷などの救急症例、全身疾患をもつ患者様の歯科治療、内視鏡を用いた嚥下機能評価など様々な症例を経験することができています。先生方、歯科衛生士皆さんとても優しく、明るくいい雰囲気恵まれた環境で研修できることを有難く感じています。一日一日があっという間に過ぎていきますが、残された研修期間でできるだけ多くのことを学ぶよう努力します。研修終了後はこの病院で学んだことを生かし、一流の歯科医師になれるよう頑張っていきたいと思います。これからもご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

### 歯科研修医

ふる やしき ゆう  
古屋敷 優



こんにちは。歯科口腔外科研修医の古屋敷優です。鹿児島大学を卒業し、4月にこの病院に来てからあっという間に1年が経とうとしています。初めは熊本での生活に慣れることに必死でしたが、今では患者さんとお話しさせていただく中で、初歩的な熊本弁も織り交ぜることも出来るようになりました。

歯科口腔外科では、一般歯科では経験できない症例を数多く経験することができます。親知らずの抜歯をはじめ、外傷や骨折、粘膜疾患や、嚢胞、腫瘍など、日々勉強させて頂いています。また、外科処置だけでなく齲蝕治療や義歯治療といった一般的な歯科治療を行う機会も多く、幅広く学ぶことができました。歯科だけでなく他科と連携した治療も多く、高血圧や

糖尿病、抗凝固薬や抗血栓薬を内服中の方、ビスホスホネート系薬剤関連顎骨壊死の方の治療や周術期口腔機能管理なども毎日のように経験することができ、今後歯科医師として診療を行っていく中で、口の中だけでなく全身を見る目を養うことが出来たと感じています。学会発表の機会もありましたし、耳鼻科や皮膚科、形成外科には研修医として合わせて1か月半研修をさせて頂き、様々な有意義な経験を通して多くのことを学ぶことが出来ました。学生生活が終わり、歯科医師としての第一歩を踏み出していく時期に、このような経験ができたことをとても有難く感じています。医長の中島先生をはじめ歯科口腔外科の先生方や衛生士の方々、お世話になった他科の先生方には本当に感謝しております。

新しいことを学ばば学ぶほど自分の未熟さを痛感する日々ではございますが、残りわずかな研修期間、一日一日少しでも成長できるよう努めてまいりたいと思っております。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

# 研修のご案内

## 第138回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成27年3月11日(水) 18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「産婦人科・泌尿器科救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長

三森寛幸

国立病院機構熊本医療センター泌尿器科部長

菊川浩明

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

## 第50回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成27年3月14日(土) 15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：西整形外科医院 院長

西 芳徳 先生

演題：「熱傷、創傷の治療」

### 1. 熱傷の全身管理・創傷治療

国立病院機構熊本医療センター形成外科医長

東野哲志

### 2. 創傷被覆材、陰圧閉鎖療法による創傷治療

国立病院機構熊本医療センター形成外科部長

大島秀男

### 3. 重症虚血肢の集学的治療

熊本中央病院形成外科部長

坂本忠秀 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

## 第194回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成27年3月16日(月) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

### 1. 内科基礎講座

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長

富田正郎

### 2. 症例検討 「当院におけるS状結腸捻転症の検討」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長

尾上公浩

### 3. ミニレクチャー「非痙攣性てんかん重積について」

国立病院機構熊本医療センター神経内科医長

小阪崇幸

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

## 第162回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成27年3月19日(木) 19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

### 1. 「高齢の2型糖尿病患者に発症した高度のASOを伴う足壊疽の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

堀尾香織、重本英二、前原遼、藤田良佑、坂本和香奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至

### 2. 「当院に紹介された妊娠糖尿病患者に関する臨床的な特徴の解析」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

小野恵子、堀尾香織、坂本和香奈、橋本章子、高橋毅、豊永哲至

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5796

# 2015年 研修日程表 3月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

3月	研修センターホール	研 修 室
1日 (日)		
2日 (月)		
3日 (火)		
4日 (水)	18:00~19:30 第91回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルバス研究会 (公開)	
5日 (木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「クレーム対応」 18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 <細胞診月例会・症例検討会>	
6日 (金)		
7日 (土)	14:00~16:00 第260回 滅菌消毒法講座 「パネルディスカッション」 テーマ:「滅菌技師(士)の認定を取得するためには?」	
8日 (日)		
9日 (月)		
10日 (火)		
11日 (水)	14:00~15:00 第24回 市民公開講座 「緑内障のお話」 国立病院機構熊本医療センター眼科医長 筒井順一郎 18:30~20:00 第138回 救急症例検討会 「産婦人科・泌尿器科救急疾患」	
12日 (木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「院内暴力と対処法」 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	
13日 (金)		
14日 (土)	15:00~17:30 第50回 症状・疾患別シリーズ 「熱傷、創傷の治療」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 西整形外科医院 院長 西 芳徳 先生 1. 熱傷の全身管理・創傷治療 国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 東野哲志 2. 創傷被覆材、陰圧閉鎖療法による創傷治療 国立病院機構熊本医療センター形成外科部長 大島秀男 3. 重症虚血肢の集学的治療 熊本中央病院形成外科部長 坂本忠秀 先生	
15日 (日)		
16日 (月)	19:00~20:30 第194回 月曜会 (内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
17日 (火)		
18日 (水)		13:00~17:00 糖尿病教室 (研2)
19日 (木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「防災の心構え」	19:00~20:45 第162回 三木会 (研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
20日 (金)		15:30~16:45 肝臓病教室 (研2) 「自己免疫性肝疾患について」
21日 (土)		
22日 (日)		
23日 (月)		
24日 (火)		19:00~21:00 小児科火曜会 (研1)
25日 (水)		
26日 (木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「抗がん剤治療の注意点」	
27日 (金)		
28日 (土)		
29日 (日)		
30日 (月)		
31日 (火)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代) 内線2630 096-353-3515 (直通)